

2026年2月13日

各 位

会 社 名 株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
代表者名 代表取締役社長 伴 将行
(コード番号 4436 東証グロース)
問合せ先 ファイナンス&ストラテジー本部 執行役員 前田 陽介
(TEL : 03-6274-6493)

「継続企業の前提に関する注記」の記載解消に関するお知らせ

当社は、本日公表いたしました2026年3月期第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）におきまして、これまで記載しておりました「継続企業の前提に関する注記」の記載を解消いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

当社グループは、2023年3月期から2025年3月期まで3期連続で経常損失を計上し、2025年3月期末において短期有利子負債残高が手元流動性に比し高水準な状況にあるため、今後の事業の状況によっては今後の資金繰りに重要な影響を及ぼす可能性があることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められるとして、「継続企業の前提に関する注記」を記載しておりました。

このような状況を解消すべく、当社グループは2025年2月に経営体制を変更するとともに、従前の売上拡大志向から選択と集中へと経営方針を大きく転換し、収益性及び財務体質の改善に向けた各施策を遂行してまいりました。

収益面においては、不採算事業からの撤退や事業ポートフォリオの見直しを進め、2025年3月期には事業整理損1,181百万円、減損損失2,146百万円を含む特別損失3,439百万円を計上いたしました。一方で、固定費削減を徹底し、コア事業への経営資源集中を通じて損益分岐点が低下するなど、収益構造の改善が進展しております。

その結果、当連結会計年度においては、第1四半期に累計で黒字を確保し、第2四半期には各月黒字化を達成して収益性が向上いたしました。さらに第3四半期においても単月黒字を継続し、第2四半期から増益となるなど、収益の安定化が段階的に進展しております。当第3四半期連結累計期間においては、営業利益395百万円、経常利益289百万円を計上し、改善が確認されております。

また、既存アセットの収益最大化施策についても具体化が進んでおり、再成長に向けた準備が進展しております。詳細につきましては、本日開示しております「2026年3月期第3四半期決算説明資料」をご参照ください。

財務面においては、短期有利子負債 7,717 百万円は依然として現預金 1,127 百万円に比して高水準であるものの、現預金残高は前期末 542 百万円から当第 3 四半期末には 1,127 百万円へ増加しており、業績及びキャッシュ・フローの改善とあわせて資金創出力の改善が進んでおります。

また、当該短期区分への振替は、2025 年 6 月に取引金融機関と合意した長期借入金返済計画変更に基づき、モニタリングの観点から初回満期日を 2026 年 6 月末としていることによるものであります。当該変更合意は、当社の業績進展に応じて延長更新することを基本としており、現在、各取引金融機関との継続的な対話のもと、延長更新を基本とした運用を行っております。加えて、来年度以降も継続的な固定費削減と業務効率の向上を両立し、今後の更なるキャッシュ・フロー改善に取り組んでまいります。これらにより、資金繰りにおいて重要な懸念がないと判断しております。

従いまして、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断し、「継続企業の前提に関する注記」の記載を解消することといたしました。

株主の皆様、取引先をはじめとするステーク・ホルダーの皆様には、ご心配をおかけしておりますが、今後も一層の企業価値向上に努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上